

歩行者用信号灯器のLED化に向けた実証実験の実施結果について

1 経緯等

歩行者用信号灯器のLED化については、疑似点灯防止及び長寿命による安全性の向上、省エネルギー効果等の観点から、実用化に向けた取組みを進めてきた。今般、人形部分の視認性を十分に確保する必要があるため昨年12月から本年3月末まで、神奈川県警及び兵庫県警の協力を得て、試作品を全国2ヶ所に試験設置の上、高齢者目の不自由な方等に対するアンケート調査、警察署協議会等を通じて地域住民からの意見聴取等を行った。

2 実験結果の注目点

(1) アンケート調査結果（一般通行人約1,600人に対するアンケート調査を実施。（うち16%に相当する260人が高齢者）

ア アンケート調査に対する有効回答のうちデザイン案1については約6割が見やすいとの評価を示した。高齢者についてはデザイン案1に対する肯定的意見は約8割に上った。（なお、デザイン案2については全体の5割、高齢者の6割が肯定的評価）

イ デザイン案1に対する肯定的評価の理由としては、「はっきりしている」「明るい」「見やすい」というものが多数に上った。

(2) 警察署協議会における意見聴取結果

ア 電球式と比較しても光がシャープでよく見える等の意見が多く出されたほか、西日の当たる時間帯に見たところ、これまでのものとは違ってよく見えるといった意見も出された。

イ 消費電力量の削減の観点からも整備を進めていくべきであるとの意見や幹線道路、通学路、歩行者横断数の多い横断歩道等に優先的に整備してほしいとの要望が相次いだ。

3 今後の予定

(1) 今回の実証実験において、歩行者用信号灯器のLED化を望む声が多かったことを踏まえ、今夏までにデザイン案1をベースに交通安全施設としての標準仕様及び整備方針を策定する予定である。

(2) 来年度を初年度とする次期交通安全施設等整備事業長期計画の中で、道路交通のバリアフリー化に資する事業との明確な位置付けを与え、来春以降、都道府県警察において積極的な整備が推進されるよう指導していく方針である。